



大町商店街にある、キッズスペース併設の
コワーキングスペース「MARUWWAニコメ」。
そこに集うママや働く人々が自分たちの
目線で見つけた、これから活躍しそうな
ヒト・モノ・コトなど身のまわりの新しい芽。
それが「ニコメ(二個目)のメ(目・芽)」です。

MARUWWAニコメ
〒017-0841 大館市字大町9
TEL: 0186-59-5305
https://maruwwa.com/nicome/



今月のメダマ

〈対談インタビュー②〉 フリーランスという働き方について



MARUWWAニコメには、フリーランスで活動している方が多く集まっています。そこで、今回はフリーランス歴も業種も異なる4人に集まっていただき、仕事の取り組み方などについて対談していただきました。対談中は「自分もそんな感じです!」「なるほど〜」と皆さん共感する部分や、新しい発見があったようです。これからフリーランスという働き方を考えている方の参考になるかもしれません。



さとう ふみえ
佐藤 文枝さん

ビジネスマナー講師。
1992年から30年以上フ
リーランスとして活動。
元・北部男女共同参画セ
ンターセンター長。



ふかさわファーム
みやもと あきこ
宮本 昌子さん

理学療法士としてリハビ
リ施設に約13年勤務後、
生まれ育った北秋田市の
祖父の畑を受け継ぐ形
で2021年「ふかさわ
ファーム」をスタート。



Cheke Rice
きくち たかふみ
菊地 貴郁さん

秋田市でアパレルや飲食業
を経験後、北秋田市に帰省
し起業。2022年からフード
カーで県内各地を周り、県
産食材たっぷりの「秋田ガ
パオライス」などを販売。



mamaplan
しまだ まきこ
島田 真紀子さん

出版社勤務を経て、夫の
転勤を機に大館市に移
住。2011年からフリー
ライターとして雑誌や
web媒体などを中心に
活動中。

ー仕事の作り方、もらいかたについて

島田真紀子さん (以下、島田)

2011年、フリーライターとして活動を始めて1~2年は仕事が少なく、貯金を切り崩して生活をする時期もありました。その時、「ライターだけでは生きていけない」「webの需要があるのでは」と思い、独学でホームページ制作を学びました。徐々にホームページの制作依頼も増えていきましたが「やっぱり取材をしている方が楽しい」と気づき、ライティングに力を入れることに。最近は一人では仕事が回らなくなり、チームで動くようにしています。

宮本昌子さん (以下、宮本) 起業当初からインターネット通販サイトを活用し、全国各地に野菜を発送していました。現在はそのほかにも、農協出荷、産地直売所・イベントなどでの対面販売も行っています。個人の力では出来ることに限界を感じる時もあり、仲間の農家達と協力して関東方面と一緒に出荷することも

あります。

菊地貴郁さん (以下、菊地) 秋田市から帰郷した当初は知り合いゼロの状態。「いかに自分を知らせてもらうか」を考え、とにかくセミナーや起業塾などにたくさん参加しました。横のつながりを増やしながら、自分でチラシやホームページを作り「とにかく自分の想いを伝える」ことに注力しました。

ーフリーランスにとって大切なことは?

佐藤 自分ができないことをどんどん人に頼んでいく。信頼できる仲間とのネットワークを作ることはとても大切だと思います。

島田 フリーランスは小回りがききますし、組織に縛られずに活動出来るのが強みですよね。

佐藤 ふとした会話から仕事が生まれることもあるし、ご縁が大事ですね。一つ一つの出会いを大切に、時期がきたら次の段階に進んでいく。これからは若い世代が生き生きするための土壌を作っていきたいです。

ー仕事をする上で大切にしていることは?

島田 「楽しい」を大事に仕事をすること。ライターを始めた当初は、「もっと稼げる仕事に転職しようかな」と思ったこともあります。でも、出版社時代の上司に「書くことだけは続けなさい」と言われ、その言葉通り継続していたら「やっぱり

自分は書くことが好きなんだ。手放すことは出来ない」と思いました。時には仕事でトラブルがあったり、忙殺されることもありますが、なるべく「楽しい状態をキープすること」を大切にしています。

佐藤 やっぱり、人とつながって人に助けられる、その喜びを実感しやすいのはフリーランスならではの。職業訓練校の講師をしていたとき、3カ月の期間の間に生徒さん達が自信を持って就職していく姿を見てとても嬉しかったですね。「継続は力なり」「実るほどに頭を垂れる」という言葉を軸に、年齢を重ねても「おかげさま精神」を大切にしています。自分が笑顔でいると、笑顔の人達が集まってくれますよ。

菊地 感謝の気持ちや人とのつながりを大切に、気概を持って仕事に取り組むようにしています。「秋田ガパオライス」を通して、地元のことをもっと知って欲しいです。フードカーは移動販売なので、県南へ行って県北地域のPRをすることもあります。「県北に行ってみようかな」と思ってもらうきっかけになったら嬉しいですね。

宮本 夢中になって、やれるだけのことをやること。途中でやめないで、まずは楽しみながらがんばることです。普段は一日中畑にいたことが多いのですが、市日やイベントに参加すると仲間がいて、気分転換になります。応援してくれている家族に感謝しながら頑張っていきたいですね。

北鹿ネコつながぎ



かすみ
嵩 ウニ (大館市)

いつもウニウニ鳴いてま〜す!

いしころキラリ

3年ぶりに開催! /

50周年を迎える本場大館 きりたんぽまつり

「本場大館きりたんぽまつり」が、10月8日(土)~10日(月)の3日間、ニプロハチ公ドームにて3年ぶりに開催されます。今年で50周年を迎えるこのお祭りは、長木川の河川敷での開催が始まりです。「本場の本気」をテーマに掲げ、樹海ドーム(当時)に会場を移した2012年を皮切りに、ステージショーや体験メニューを盛り込んだ、大館を代表するイベントに成長しました。イベント躍進のきっかけは、屋内開催を決断した故・三浦清久大館商工会議所会頭の強い意志でした。現在は団体の垣根を超えた「食の祭典協議会」が中心となって企画運営しています。2019年には、3日間で計約11万5千人が来場しました。

きりたんぽの断面をモチーフにしたロゴデザインは、ドーム開催開始と時を同じくし、2012年に誕生したものです。それぞれのお店や家庭で作る、ひとつひとつ形や長さが違うきりたんぽをイメージし、いしころ合同会社代表の石山拓真がデザインしました。過去にいしころ合同会社では「きりたんぽ検定」や「秋田犬検定」を企画してきましたが、今年の実施はお休みし、50周年記念のブース担当として、来場者が楽しめる様々な企画や参加型イベントできりたんぽまつりを盛り上げます。様々な顔、味が集まるきりたんぽまつり。ぜひお越しください!

本場大館



きりたんぽまつり

大館食の祭典協議会
WEBサイト
http://odate-foodfes.com

